

金属労協九州ブロックが初の「親子ものづくり教室」を開催

5月30日午後北九州市小倉に130名の親子が参加

2010年5月30日（日）午後1時半から、福岡県北九州市のJR小倉駅から徒歩からほど近い、住友金属小倉事業所の一角にある社員施設「このみクラブ」で、金属労協九州ブロック主催、北九州市の後援で「親子ものづくり教室」が開催された。今回は、九州ブロック各県での「親子ものづくり教室」開催の促進イベントも兼ねて、金属労協本部の支援のもと、学研創造研究所の協力を受けて、実験ショーとものづくり教室の2部形式で行った。親子ものづくり教室には、連合福岡金属部門連絡会の各産別の親子130名（うち子供56名）が熱心に参加した。

最初に主催者を代表して連合福岡金属部門の西村代表幹事が挨拶に立ち、子供たちに労働組合とは何か、金属労協のものづくり教室の意義などについてわかりやすく説明。続いて、来賓として後援いただいた北九州市の北橋健治市長から祝辞を受けた。市長に選出される前の衆議院議員時代は金属労協政治顧問として、ものづくり立国に向けて尽力されていた北橋市長は、祝辞の中で、「ものづくりこそが日本の将来を左右する。ものづくり技術・技能の伝承は非常に重要なことであり、その意味で、今回の親子ものづくり教室開催の意義は大きい。多くのものづくり産業を抱える北九州市として成功を祈ります」等と述べた。金属労協を代表して浅井政策局次長が挨拶に立ち、金属労協が推進してきた「ものづくり教室」の趣旨について説明した。

第1部「科学実験ショー」

第1部は、学研科学創造研究所の前田保典、梅崎洋、西嶋博子の3氏が講師となり、「空気と音と鉄の秘密実験ショー」と題した科学実験ショーを行った。会場の子供も達も交代で参加しながらの実験ショーに子ども達のみならず、親たちも目を光らせて実験ショーに引き込まれていた。実験ショーでは、「空気に重さはあるの?」、「熱くなったり冷たくなったり不思議な空気の性質」、「空気の流れを体感」、「空気砲でわくわくどきどき大実験」、「空気中を伝わる音」、「バネ電話で遊ぼう～山彦の不思議」、「鉄の不思議実験」、「エジソン式コップ蓄音機」などをテーマに、いろいろな道具を使っての実験ショーに子ども達は驚いたり、どうなるかイメージしたり、体感したり、あっという間の1時間半の時間だった。



第2部「親子ものづくり教室」

休憩の後、第2部では、親子で実際にものを作る「親子ものづくり教室」を体験。親子はそれぞれ、ものづくりキットのあるテーブルに移動して、驚きおもしろ二足歩行をする「じたばたロボコロボット」を親子で協力しあいながら作った。講師やスタッフにアドバイスを受けながら、午後5時前には全員がロボコロボットを完成、お盆の上で対戦させたり、床で、歩かせたり、子ども達の顔は、苦勞して作った後のものづくりの楽しさで一杯だった。親子で、語り合いながら、協力しながらのものづくりのひとときの余韻にひたりながら、作ったロボコロボットを持って、130人の親子たちは、手をつなぎながら会場を後にした。以上

